

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第121期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	わかもと製薬株式会社
【英訳名】	WAKAMOTO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 神谷 信行
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
【電話番号】	(03)3279-0371(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
【電話番号】	(03)3279-0371(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第120期 第3四半期 累計期間	第121期 第3四半期 累計期間	第120期
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 12月31日	自平成27年 4月1日 至平成27年 12月31日	自平成26年 4月1日 至平成27年 3月31日
売上高 (千円)	8,153,138	8,569,285	10,736,425
経常利益 (千円)	397,245	280,845	233,665
四半期(当期)純利益 (千円)	254,228	168,331	83,343
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	3,395,887	3,395,887	3,395,887
発行済株式総数 (千株)	34,838	34,838	34,838
純資産額 (千円)	14,055,583	14,326,285	14,124,284
総資産額 (千円)	19,022,864	19,138,357	18,971,110
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	7.32	4.85	2.40
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	3.00
自己資本比率 (%)	73.89	74.86	74.45

回次	第120期 第3四半期 会計期間	第121期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成26年 10月1日 至平成26年 12月31日	自平成27年 10月1日 至平成27年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.99	3.07

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 従来、ロイヤリティに関する受取技術料は「営業外収益」に計上しておりましたが、第121期第3四半期累計期間より「売上高」に含めて計上することに変更いたしました。第120期第3四半期累計期間及び第120期の売上高については、遡及処理後の数値を記載しております。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の概況

当第3四半期累計期間における医薬品業界は、引き続き医療費抑制策の基調は変わらず、一般用医薬品市場におきましても市場競争の激化が続いており、厳しい環境下で推移いたしました。

そのなかにあって当社の医薬事業では、主力製品であるアレルギー性結膜炎治療剤「ゼベリン点眼液0.1%」、水溶性非ステロイド性抗炎症点眼剤「ジクロード点眼液0.1%」、緑内障・高眼圧症治療剤「リズモンT G点眼液」および主力製品へと育成すべき重要な製品の眼科手術補助剤・硝子体内注用副腎皮質ホルモン剤「マキュエイド硝子体内注用40mg」、緑内障・高眼圧症治療剤（特許を持った後発品）「カルテオロール塩酸塩L A点眼液」、「レボフロキサシン点眼液」を中心とした抗菌点眼薬シリーズおよび業務提携先との共同販売品である医家向けサプリメント「オキュバイト」シリーズ、A型ボツリヌス毒素製剤「ボトックス注用」、ドクターズサプリメントとして「オプティエイドDE」の販売促進を行ってまいりました。

薬粧事業では、主力製品である「強力わかもと」に加え、薬用歯磨き（医薬部外品）「アバンピーズDX」シリーズをリニューアルし、エビデンスに基づき口臭予防を訴求した新たな「アバンピーズ」シリーズ2製品および新製品「わかもと菊花ポリフェノール」（健康食品）の販売促進を行ってまいりました。

特販事業では、国内向けに医薬品原料の販売と他社受託品を、海外向けに「わかもと」、原料薬品および点眼剤の製造販売に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は85億6千9百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益は2億2千1百万円（前年同期比33.1%減）、経常利益は2億8千万円（前年同期比29.3%減）、四半期純利益は1億6千8百万円（前年同期比33.8%減）となりました。

セグメント別の売上高の状況につきましては、医薬事業では長期収載品である「ジクロード点眼液0.1%」、「リズモンT G点眼液」が減少いたしました。また、「カルテオロール塩酸塩L A点眼液」、「ラタノプロスト点眼液0.005%」、「ラタノプロスト点眼液0.005%NP」、「マキュエイド硝子体内注用40mg」、「キャピリア アデノアイNeo」の売上が増加いたしました。その結果、売上高は43億9千7百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

薬粧事業では、主力製品の「強力わかもと」の売上が増加し、その結果、売上高は23億1百万円（前年同期比29.8%増）となりました。

特販事業では、海外向けの輸出用原料薬品等が減少いたしました。その結果、売上高は17億3千3百万円（前年同期比14.6%減）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における当社の研究開発活動の金額は8億8千5百万円であります。なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,838,325	34,838,325	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は1,000株であ ります。
計	34,838,325	34,838,325	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	34,838,325	-	3,395,887	-	2,675,826

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 102,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 34,260,000	34,260	-
単元未満株式	普通株式 476,325	-	-
発行済株式総数	34,838,325	-	-
総株主の議決権	-	34,260	-

（注） 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株（議決権の数3個）含まれております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
わかもと製薬株式会社	中央区日本橋本町二丁目2番2号	102,000	-	102,000	0.29
計	-	102,000	-	102,000	0.29

2【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、京橋監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がないため、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,572,188	2,444,155
受取手形及び売掛金	3,693,369	3,958,436
有価証券	406,417	406,513
商品及び製品	1,267,997	1,643,735
仕掛品	475,551	376,243
原材料及び貯蔵品	643,454	649,275
繰延税金資産	349,662	290,113
未収還付法人税等	118,251	20,705
その他	159,466	161,049
流動資産合計	9,686,359	9,950,227
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,778,103	7,864,756
減価償却累計額	4,135,134	4,335,832
建物(純額)	3,642,969	3,528,924
構築物	279,197	279,427
減価償却累計額	213,105	220,937
構築物(純額)	66,091	58,489
機械及び装置	7,678,671	7,813,444
減価償却累計額	6,831,915	7,053,866
機械及び装置(純額)	846,755	759,577
車両運搬具	35,201	43,861
減価償却累計額	33,577	24,957
車両運搬具(純額)	1,624	18,903
工具、器具及び備品	873,145	884,859
減価償却累計額	733,189	748,916
工具、器具及び備品(純額)	139,956	135,942
土地	341,552	341,552
建設仮勘定	22,605	20,695
有形固定資産合計	5,061,555	4,864,086
無形固定資産		
特許実施権	300,000	300,000
特許権	704	615
ソフトウェア	133,022	127,748
ソフトウェア仮勘定	-	31,220
その他	3,988	3,913
無形固定資産合計	437,715	463,497
投資その他の資産		
投資有価証券	2,864,289	3,079,023
保険積立金	667,500	529,651
その他	253,689	251,872
投資その他の資産合計	3,785,478	3,860,546
固定資産合計	9,284,750	9,188,130
資産合計	18,971,110	19,138,357

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,173,706	1,394,834
短期借入金	308,000	440,000
未払法人税等	-	5,480
未払消費税等	122,716	38,120
賞与引当金	232,900	104,165
返品調整引当金	20,000	11,000
その他	809,546	887,805
流動負債合計	2,666,870	2,881,406
固定負債		
退職給付引当金	1,304,488	1,249,315
役員退職慰労引当金	9,600	-
繰延税金負債	10,210	100,815
長期借入金	688,000	400,000
長期預り金	167,655	167,729
その他	-	12,804
固定負債合計	2,179,955	1,930,665
負債合計	4,846,825	4,812,072
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,395,887	3,395,887
資本剰余金	2,675,826	2,675,826
利益剰余金	6,953,006	7,017,112
自己株式	26,896	30,057
株主資本合計	12,997,823	13,058,768
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,126,460	1,267,517
評価・換算差額等合計	1,126,460	1,267,517
純資産合計	14,124,284	14,326,285
負債純資産合計	18,971,110	19,138,357

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	8,153,138	8,569,285
売上原価	3,639,866	3,730,231
売上総利益	4,513,272	4,839,053
販売費及び一般管理費	4,182,027	4,617,396
営業利益	331,244	221,657
営業外収益		
受取利息	453	319
受取配当金	39,236	41,919
受取補償金	67,010	-
その他	75,814	44,458
営業外収益合計	182,514	86,698
営業外費用		
支払利息	11,850	7,325
固定資産除却損	4,681	662
寄付金	16,205	15,451
支払補償費	61,914	-
たな卸資産処分損	17,738	-
その他	4,124	4,071
営業外費用合計	116,514	27,510
経常利益	397,245	280,845
特別利益		
固定資産売却益	-	1,149
特別利益合計	-	1,149
特別損失		
投資有価証券評価損	242	-
特別損失合計	242	-
税引前四半期純利益	397,002	281,995
法人税、住民税及び事業税	44,500	29,100
法人税等調整額	98,273	84,563
法人税等合計	142,773	113,663
四半期純利益	254,228	168,331

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

従来、「営業外収益」に計上しておりました当社の研究開発の成果に基づくロイヤリティーに関する受取技術料は、当第3四半期累計期間から「売上高」に含めて計上しております。

この変更は、今後、研究開発成果のロイヤリティー収入について、製商品の販売と同等の重要性を持って注力する経営方針であること、また、今後、前事業年度に売上高に計上区分の変更を実施した海外導出にともなう受取技術料と一体化した収入が発生する可能性が予測されるために行うものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。この結果、前第3四半期累計期間の四半期損益計算書において「営業外収益」の「受取技術料」に表示しておりました101,967千円を「売上高」として組替えし、「受取技術料」(1,368千円)は重要性が減少したため「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。

また、「営業外費用」の「その他」に表示しておりました受取技術料に係る費用(10,000千円)を「販売費及び一般管理費」として組替えしております。

これにともない、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の「その他」に含めて表示しておりました未収入金のうちロイヤリティー収入に係る55,654千円を「受取手形及び売掛金」として組替えしております。

なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
支払手形	-	10,021千円
設備支払手形	-	2,485

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
減価償却費	552,787千円	550,913千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

平成26年6月24日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	104,278千円
1株当たり配当額	3.0円
基準日	平成26年3月31日
効力発生日	平成26年6月25日
配当の原資	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

平成27年6月23日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	104,226千円
1株当たり配当額	3.0円
基準日	平成27年3月31日
効力発生日	平成27年6月24日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 損益計算 書計上額 (注)2
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,270,010	1,773,600	2,028,707	8,072,318	80,820	8,153,138	-	8,153,138
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4,270,010	1,773,600	2,028,707	8,072,318	80,820	8,153,138	-	8,153,138
セグメント利益又は 損失()(注)3	429,986	287,978	494,195	352,187	20,943	331,244	-	331,244

(注)1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 表示方法の変更にともない、「売上高」及び「セグメント利益または損失」の組替えを行っております。この結果、特販事業で101,967千円売上高が増加し、91,967千円セグメント利益が増加しております。

当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 損益計算 書計上額 (注)2
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,397,321	2,301,485	1,733,373	8,432,179	137,106	8,569,285	-	8,569,285
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4,397,321	2,301,485	1,733,373	8,432,179	137,106	8,569,285	-	8,569,285
セグメント利益又は 損失()	525,432	315,198	392,165	181,931	39,726	221,657	-	221,657

(注)1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	7円32銭	4円85銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	254,228	168,331
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	254,228	168,331
普通株式の期中平均株式数(千株)	34,754	34,737

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

わかもと製薬株式会社

取締役会 御中

京橋監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小宮山 司 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 荒木 勝己 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているわかもと製薬株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第121期事業年度の第3四半期会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、わかもと製薬株式会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。